

5月15日

今日の藤本蚕業歴史館で見た史料は明治32年度における長野県の決算報告書です。これは現在でも年度ごとに公開している長野県の財政状況を表す報告書で、1年に各分野ごとにどれだけの予算が充てられたのかが分かります。具体的な内容としては、各項目ごとに予算額を公表し、前年と比較して増減した場合その要因を数字を用いて明確に説明しています。そのため多角的な視点から当時の長野県の様子を読み取ることが出来ます。藤本蚕業歴史館は名前の通り蚕糸業関連の史料が中心ではありますが、蚕糸業以外の分野でも膨大な一次資料を有しており、そこから発行当時の人々の様子を従来の視点から捉えなおすことが可能であることが特徴の一つです。

5月22日

今日は西部地域の部会に参加し、部会の現状について話を聞きました。最も印象的だったのはデジタルマップの認識に関する話題で、基本的にデジタルマップの有用性があまり地域に認識されておらず、それによる苦情が起こるなどの問題も発生していることが分かりました。デジタルマップはデジタルを介して地域の現状や魅力を視覚的に伝えることが出来る反面、依然としてデジタルに対する障壁が完全には拭いきれないという課題を抱えています。しかし、西川町などデジタルマップに積極的な自治体も存在しており、こうした他自治体との比較はデジタルマップの重要性を認識させる上で有効な要素の一つになり得る可能性があると思いました。

5月29日

今日は13:30より地域アーカイブサロンに参加し、全国からのデジタルアーカイブに関心の強い参加者の話を聞きました。私が最も印象に残ったのはアナログゲームのデジタルアーカイブサイト(アナログゲームミュージアム)を運営していた方で、オンライン目録の作成やアナログゲーム関連資料の受け入れなど非常に緻密なアーカイブ作りを行なっていることに驚きました。また、サイトの存在を各種SNSやイベント、ゲームマーケットなどで周知していることも印象的でした。アーカイブサイトを有効的に活用するためには内容も重要ですが、それと同時にサイト自体が楽しく、かつ学びになると人々に周知させることが必要です。その上でアナログゲームミュージアムから得た教訓を今後の活動に生かしていきたいと思いました。

6月5日

今日の藤本蚕業歴史館では歴史館内にある史料について確認しました。その中で未だに整理されていない史料についての話題が出され、特に江戸時代の文書など読めない一次史料を将来的にAIを用いて読み取り紹介するという案が出ました。

歴史館内の史料は大まかには把握していましたがこのような視点で史料紹介をするという話は初めてであったので非常に興味を持ちました。今までは主に近代史関係の史料をネット上にアップロードしていましたが基本読める史料になっていますが、今後はこのように読めない史料に対してもどのように面白く紹介していくのかについて考えていきたいと思いました。

6月12日

今日は小諸に行き、小諸商工会議所と文庫蔵を訪問しました。小諸商工会議所では、会頭の塩川さんと専務理事の森泉さんの話を聞くのが中心で、主に小諸の地域活動の課題について確認しました。文庫蔵では、糸のまち・こもろプロジェクト理事長の清水さんと監事の土屋さんと共に蔵の中の史料閲覧を行いました。これらの活動から感じた小諸における課題は、小諸の地域活動をどのように面白く継続して行えるよう促せるかという点で、それを踏まえて地域アーカイブ活動を行う必要があると思いました。アーカイブ活動の中心となる史料は文庫蔵内の史料が中心となりますが、史料は藤本蚕業歴史館と同様蚕糸業中心ではあるもののそれ以外の分野も存在します。そのためどのような史料があるのかは把握できていません。そのため最終的にはアーカイブの面白さを地元の人達に伝えるのが目的の一つではありますが、まずは小諸のアーカイブ活動を自ら行い、見たことのない史料を見つけて考察する面白さを感じる必要があると考えました。

6月19日

今週は就職活動が非常に忙しい週となっているため、探究活動はあまり行いきにくい状況にありますが、その中で火曜日に上田市公文書館、及び藤本蚕業歴史館の訪問があります。上田市公文書館では今年度予定をしているデジタルアーキビスト養成講座の実施協力依頼、藤本蚕業歴史館所蔵史料の未来に向けたセーフティーネット（移管保全）の可能性について浅野館長と打ち合わせます。藤本蚕業歴史館ではミーティングを行い、主に現在の展示状況の改善、及びデジタル化のレイアウト案について話し合う予定です。

6月26日

今週は就職活動が非常に忙しい週となっているため、探究活動はあまり行いきにくい状況にあります。具体的には日曜日に重要な試験が存在し、そのための準備を行う必要があります。ゼミに関しては、小諸の活動に関する企画、具体的には小諸高校の地域学習の企画について考える予定です。

7月3日

今週は就職活動が非常に忙しい週となっているため、探究活動はあまり行いにくい状況にあります。具体的には金曜日に最も重要な試験が存在し、そのための準備を行う必要があります。ゼミに関しては、藤本蚕業歴史館に赴き、歴史資料の閲覧を行いました。藤本蚕業歴史館内の史料は膨大であるため、史料の比較を行うことで歴史的事実が現実味を帯びて伝わってきます。例えば、本日読んだ資料は金解禁による日本経済の崩壊を報じた新聞と二・二六事件の雑誌ですが、新聞には1日の生活費が20銭の男性が描かれています。これだけだとどれぐらい男性が貧窮しているのかが分かりにくいですが、ここに雑誌の価格が30銭であったことを付け加えると、男性は1日雑誌3分の2程度の金額で生活していたことが分かります。これは現代の価格に換算すると200円程度であり、貧窮度合いが凄まじいことが理解できます。このように、史料を比較することで貨幣価値がおおよそ把握でき、史料を現実味をもっと楽しむことが出来ることも藤本蚕業歴史館史料の特徴の一つです。

7月10日

今週は藤本蚕業歴史館を訪れ、主に小諸の今後の予定について話しました。当初、13日に小諸を訪れる予定ではありましたが、都合が合わなかったため中止となりました。その中で、長野県の蚕糸業で有名な須坂、岡谷、小諸、上田などの地域ネットワーク間でデジタルアーカイブの作成を通じDX化を推進するプロジェクトについて話し合い、岡谷蚕糸博物館を中心に各地域にDXを広めていく方針を決定しました。そのため、今後は一度岡谷を訪れ、岡谷蚕糸博物館の館長の方と話し合いを行う予定です。

7月17日

今日は先週に引き続き藤本蚕業歴史館で活動を行いました。具体的には、藤本蚕業の史料のデジタル化作業を実際に行い、藤本蚕業アーカイブに記事を投稿しました。感想としては、スキャナーの精度が良いと改めて感じた一方、画像が謎に白く光るなどの課題があり、その解決を図りたいと感じました。今週は金曜日に岡谷を訪れ、デジタルアーカイブのネットワーク構想案を伝えると共に岡谷の現状について視察する予定です。